

りょうぜん天蚕の会だより

【第22号】



発行責任者 りょうぜん天蚕の会 会長 菅野秀一（電話・FAX 024-586-3030）

【当会の活動方針】霊山の豊かな自然環境を活かし、野蚕である「天蚕」の育成と、その飼育体験交流や独特の風合いをもつ萌葱色の繭・絹糸の新たな加工や商品化による地域特産品の創成をはかり、活力ある地域づくりを推進する。また、会員一丸となって繭の生産、新商品開発に取り組むとともに、小学校等への観察用天蚕配布、県内外天蚕関係者との交流及び展示PR活動等を行う。

春暖の候、皆様には益々ご健勝のことと存じます。平成17年2月に設立した「りょうぜん天蚕の会」はこの度22年目を迎えました。これも偏に会員皆様の熱心な活動と設立以来伊達市、市観光物産交流協会、大日本蚕糸会、野蚕学会、福島県関係機関のご支援の賜と厚く御礼申し上げます。

令和7年度の繭の収穫は山付け総数5,000粒に対し約1,920個でした。数年来の猛暑の影響で改植した幼木の生育が進まず枯木も多く見られました。また外来新種の「カミキリムシ」が散見され、発生期間が長く飼料木葉に大きな障害となりました。今後ハウス内の乾燥状況を確認しながら「散水」や「害虫対策」等の新たな管理作業が必要であると痛感しました。そして6月に先進地研修として長野県内養蚕関係施設を視察しました。研修先は何れも地域発展の基となった養蚕業の歴史と機器材を保存展示し、その蚕業文化を継承実践し、更なる技術向上を目指す立派な施設でありました。どの研修先でも福島県伊達の養蚕の歴史は知られており、また私たちの「りょうぜん天蚕の会」も既知であり感激しました。

福島県でも伊達市でも「伊達の養蚕・製糸業」を全国に紹介できる同様の施設が出来ぬものかと思った次第です。

今後は会員一同意を新たに、さらなる発展を目指し努力したいと思います。皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

（会長 菅野秀一）



7月19日 第二次繭収穫の一休み（柿の木陰で）

令和7年度総会開催

3月16日(日) 午後2時30分より霊山町中川集落センターにおいて会員28名が出席し、河田会員の司会により第21回総会を開催した。菅野会長の挨拶に引き続き伊達市霊山総合支所の佐藤吉典支所長、福島県北農林事務所伊達農業普及所の渡邊敏弘支所長より祝辞をいただいた。議長に菅野会長を選出し6年度事業報告と一般会計報告並びに7年度事業計画案、予算案が原案通り承認された。また役員の一部改選があり、事業部長に島貫茂さん、幹事に三田村敏正さんが選出された。



天蚕卵の選別と袋詰め

3月16日(日) 総会に先立ち午後1時から25名参加し、天蚕卵5,000粒の袋詰め(約500袋)を行い、山付け作業の準備を整えた。

↓ 青いメッシュの袋に卵を10粒入れる



卵選別の吉田さん、 義治さん、河田さん、加藤さん



袋詰め の 石塚さん、鈴木静子さん、渡辺さん

飼育樹の剪定

2月16日(日)育ハウスにおいて12名の会員が参加し剪定作業を行った。ここ数年来、猛暑の影響で樹勢の低下や枯れる樹木が多く見られた。また、カミキリムシ等による食害の樹株も例年のごとく散見され、改植を

要するカ所が各所に見られた。

←エゾノキヌヤナギの剪定

↓クヌギの剪定



12号ハウス 島貫さん、保雄さん、義治さん、渡辺さん、八島さん



橋本ハウス 田中さん、高橋さん、蕨野さん、大谷さん

防虫剤散布、堆肥散布

2月26日(水)、3月7日(金)の両日に防虫剤散布作業を行った。また、4月5日(土)、会員5名で堆肥散布を行った。防虫剤はカミキリムシによる根株やマイマイガによる樹葉の食害を防止するため重要である。また、剪定時に確保した苗木を植樹し、堆肥散布を行った。



防虫剤散布 6号ハウス



堆肥散布 7号ハウス



堆肥散布 11号ハウス

山付け、ネット張り

4月6日(日)、会員15名で天蚕卵3,500粒の山付け作業とハウス14棟のネット張り作業を実施した。女性会員は一袋に10粒入った天蚕卵を飼育樹エゾノキヌヤナギに山付けした。

また、5月8日(木)、会員5名で第二次山付け作業を行った。2号ハウスのクヌギに天蚕卵500粒を山付けした。



12号ハウス ネット張り 島貫さん、義治さん、蕨野さん、高橋さん



山付け 2号ハウス 八島利幸さん 八島恭子さん



6号ハウス 鈴木麻紀さん 鈴木有美子さん



松浦さん 小倉さん

天蚕孵化生育確認

6月6日(金)、9日(月)4名で橋本ハウス(クヌギ)の天蚕の生育状況と飼育樹の葉量確認を行った。天蚕は1令から2令期になり良好な状況であった。



天蚕の孵化、生育状況を確認する柳沼佐奈枝さん

繭の収穫

6月28日(土)、7月19日(土)9時より「館ハウス」において会員20名が参加し繭の収穫作業を行った。

昨年同様に猛暑の影響と「クチブトカメムシ」の被害が大きく、一次収穫数は1,473個、二次収穫数は447個。合わせて1,920個の収穫であった。



繭選別中の鈴木さん、村川さん、八島時男さん、八島恭子さん



11号ハウス 鈴木さん、松浦さん、上田さん、渡辺さん、八島さん



4号ハウス 島貫さん、義治さん

天蚕製品セット作り

7月29日(火)～9月9日(火) 八島事務局長宅において会員10名で天蚕製品のセット作りを実施した。ストラップ、コサージュ、リース等の部材となる「繭の切り分け、花びら、花心、葉、テープ、ピン」など10種類ほどを1セットとし袋詰めをした。延べ日数は10日間ほどで、繭工芸体験、天蚕まつり、霊山町文化祭、道の駅、学校総合学習教材等に使用する製品のセット約500組を作成した。



川辺さん、八島さん、鈴木麻紀さん親子



三浦さん、八島さん、高嶋さん、鈴木さん



大友さん、松浦さん

「桑の実ジャムづくり」をしました

6月12日(木) 会員6名で桑実ジャムづくりを行った。これまで掛田小学校の養蚕指導のため柳沼佐奈枝会員宅から桑採取していた折、桑子を合わせて採取してジャムにしていた事を会員に広めたいと今回企画した。たわわに実った桑木の下にネットを掛けて棒でたたき落として3キロ程採取できた。ゴミを良く取り除き、水少々加えて煮ること約1時間、さらに砂糖を加えて30分後に完成した。和三盆のロットとグラニュー糖のロットとを作り、一人3瓶持ち帰ることができた。



「桑子ジャム」づくりの八島局長、八島恭子さん、川辺さん、渡辺さん

ヨーグルトとトッピングしておやつとして美味しくいただいた。桑子はポリフェノールやアントシアニンの含有が多く、また、高血圧症の低下にも効果が期待されている。自然食品だから今後おいに利用したいものである。

「天蚕まつり」を開催

10月4日(土)～5日(日)に伊達市の阿武隈急行保原駅2階「コミュニティーホール」で「天蚕まつり」を開催した。例年10月3日ごろの土日に「天蚕(テン・サン)」にちなみ開催している。阿武隈急行は10月の第一日曜日が「フリー乗車の日」となっていたので大勢の乗降客で賑わった。今回は枝に「結繭したクヌギの鉢植え」を展示し、また、河田会員が孵化したばかりの生きてる「天蚕成虫(が)」を持参展示したことから来場者の注目を浴びた。



展示した天蚕製品の数々



天蚕を説明する河田さん



コースージュ、リースづくりの大勢の来客



令和7年10月5日 福島民友

「霊山町文化祭」に天蚕品協賛展示

11月1日(土)～2日(日) 霊山町体育館で恒例の霊山町文化祭が開かれ当会の作品の協賛展示を行い、会員6名が説明に当たった。例年10月に開催されていたが衆議院議員選挙と重なり11月開催となった。来場された大勢のお客様の中には天蚕製品を初めて目にする方もおり、また、「天蚕まつり」と同様に枝に「結繭したクヌギの鉢植え」を展示したことから、来場者の注目を浴びた。



「結繭したクヌギの鉢植え」と製品に見入る来客



元気に来場された八島事務局長の同級生

霊山中学校で「養蚕歴史」講話と「繭工芸」

9月26日(金) 霊山中学校で霊山の「養蚕歴史」の講話と「繭工芸」等の指導を行った。町内外の小学校で総合学習の一環として『養蚕』の講座等を行っているが、小学校の時に教わった児童達も立派な中学生になり、久しぶりの霊山の「養蚕歴史」と「繭工芸」に真剣に聞き入っていた。身近な地名、人物名、商店名等と聞く度に深く感心していた。繭工芸のデザインや加工は繊細で処置が早く、さすが中学生であった。



「養蚕歴史」を講義する八島事務局長



「繭工芸」指導の川辺さん、鈴木有美子さん

掛田小学校の総合学習「繭から糸づくり」

11月13日(木) 霊山町内の小学校で総合学習の一環として『養蚕』の講座を担当しているが、この度掛田小学校三年生に「繭から糸づくり」の指導を行った。会長、八島事務局長、八島恭子、渡邊美樹子の4名対応。繭をハサミで切った際、出てきたサナギの姿に大騒ぎ。「糸づくり」は繭を予め煮解きしてあるが、繭からサナギを取り出し引き延ばすのは大変である。糸を紡ぐのは難しかったが皆真剣であった。



糸巻き機にセットする方法を指導する八島事務局長



糸の引き延ばしを指導する渡邊美樹子さん、八島恭子さん

母蛾検査を実施

11月16日(日)中川集落センターにおいて会員18名で母蛾検査を実施した。伝染性病原菌の有無を顕微鏡で検査するものである。今年の検体数は44体(昨年23)で、疑わしい検体は皆無であった。



試験液調合の高橋さん、母蛾粉碎作業の皆さん



母蛾粉碎作業の上田さん、皆さん

新会員紹介



小倉 美奈子 さん
京都市 会社員



蕨野 妃奈乃 さん
宮崎市 大阪大学



山田 穂子 さん
芦屋市 大阪大学



大谷 真輝 さん
茅ヶ崎市 松下政経塾

県内外の団体が当会活動視察に来訪



6月22日(日) 伊達市箱崎の谷津様ご一家4名と静岡県御殿場市の中野様5名が館ハウスにおいて天蚕の飼育を視察し、八島工房で繭工芸を体験した。繭収穫を1週間後に予定していたので、飼育樹に付いた緑の繭に触れ、非常に興味を示しておられた。4年生の男の子は昆虫類に興味を持っておられ、飼育中の様々な問題について質問を受け、相当の知識があると会員一同感心したところである。10月4日の天蚕まつりにも来場され、皆さんと一緒に繭工芸を楽しまれた。



6月27日(金) 長野県伊那市の社会福祉法人アンサンブル会「伊那」の支援員今井孝幸氏が来訪した。当会は重い自閉症や心身障害の人たちを受け入れ、広大な自然の中で落ち着いていられる場所と働く場所を提供し、自立した日常・社会生活を営むことが出来るよう訓練を行っている。活動の一つに自前の農園ではブドウや野菜を栽培しているが、新たな活動を模索していたところ「天蚕」の飼育活動を広報で知り、取り組める活動か調査見聞された。剪定・防除・施肥・山付け・除草・収穫・採卵・母蛾検査・袋詰めなど、専門知識が多岐に渡ることを真剣に感じ取っておられた。



9月3日(水) 龍谷大学(京都市)社会学部 坂本清彦准教授が来訪し、「りょうぜん天蚕の会」と連携している団体と活動内容を聞き取りされた。「農業と地域・社会」農業は、地域や社会と様々な形で密接に結びついており、農業と人々の多面的で奥深い繋がりを探っている。組織の意思決定や活動をスムーズにする働きかけを探り実践していき、楽しくて成果が上がる、そんな活動を見出していくと。10月5日の「天蚕まつり」にも来場され、会員、来客の皆さんと懇談された。また、6日は八島工房、館飼育ハウス、県伊達農業普及所、三田村先生、泉原養蚕用具整理室を訪問された。



11月4日(火) 福島民報社「ふくしま創生臨時支局」の小林俊介記者が来訪し当会活動の取材を受けた。伊達市霊山・月館地区での活動団体や関連イベントを取材し紹介していくとのこと。当会設立以来20年を越え、会員40名余で活動していること、天蚕と養蚕の地域の歴史の話や繭加工を小学校の総合学習で実践していること、製品展示や体験教室の動向について感心されていた。11月9日(日)の福島民報8面 福島・県北版に「天蚕の伝統 後世に」と記事が掲載された。(P.10に詳細)



11月19日(水) 株式会社「さとふる」の寺林文弥氏が来訪した。伊達市ふるさと納税の返礼品の取り扱いについては既に3社で対応されているが、令和7年から新たに「さとふる」が参画することになり、10月16日市役所に於いて「伊達市ふるさと納税事業者説明会」が行われた。これに基づき当会に事業者登録依頼のため八島事務局長宅に来訪された。繭の加工、紡ぎ、繰糸、綜統、機織り、和紙漉、藍染め等、当会活動に関心を寄せられた。返礼品は品物に限らず、最近は「体験活動」等も返礼の対象とする傾向にあるとの紹介があった。

長野県内養蚕関係施設視察研修

6月23日から25日、長野県内養蚕関係施設の視察研修を行い、菅野会長、八島事務局長、八島恭子、渡辺美樹子、鈴木有美子の会員5名が参加した。23日は東御市(とうみし)「信州大学大室農場」、24日は安曇野市「安曇野市天蚕センター」、岡谷市「岡谷蚕糸博物館」、25日は上田市の「常田館製糸場」を視察した。

「信州大学大室農場」 (おおむろのうじょう) 天蚕の研究で有名な信州大学繊維学部の附属農場で、広い敷地に50m程のネットハウスが20数棟並び、樹齢30数年のクスギが一条に植樹され、樹高2m程度に剪定されていて、天蚕は4～5齢で結繭間近であった。1本の樹に40～50匹程飼育しているが気候関係や獣虫害の影響で繭収穫は30～40%程度だと言い、通年の収穫量とのこと。



左より小山田氏、小林氏、梶浦教授



飼育ハウス群



ハウス内 飼育樹のクスギ

「安曇野市天蚕センター」 昭和53年に安曇野市が建設し安曇野市天蚕振興会が運営している。天蚕に関する歴史や生態を大変解りやすく紹介しており、隣接した安曇野天蚕工房では手機織りの実演が観られる。織手職員は10人(市職員4名、ボランティア6名)が市の支援を得て活躍している。展示製品は職員自体の考案で作成し、センターが買い上げている。飼育圃場は約2haで樹種はクスギが主である。ハウスは「りょうぜん」と同様の規格で40棟程あるが、飼育されているハウスは半数程は荒廃しており野生獣(猿)の被害が著しい。二重ネット張りやワイヤー編み込みのネットなど資材と維持管理に多額の経費を要しているとのこと。



天蚕振興会の田口会長



機織り工房の職員と懇談



飼育ハウスの状況

「岡谷蚕糸博物館」 明治時代のはじめ岡谷の人々はイタリア、フランスから導入された洋式製糸機械に創意工夫を重ね諏訪式繰糸機を開発した。その技術は全国に普及し、岡谷で生産された生糸は多くは輸出され「シルク岡谷」と世界に轟き、岡谷は一大製糸業地に発展し、我が国の近代化に大きく貢献した。昭和39年10月、先人の偉業を後世に伝え、今後の産業発展に役立てるため、諏訪製糸研究会や全国蚕糸業関係者の協力を得て「市立岡谷蚕糸博物館」が開館した。平成26年8月1日に館内に(株)宮坂製糸所が併設され、博物館の愛称が「シルクファクトおかや」となった。



岡谷蚕糸博物館前にて



稼働している自動繰糸機



諏訪式繰糸機で作業の職員さん



宮坂製糸所の宮坂会長(左)と高橋代表取締役

「常田館製糸場」 (ときだかん) 明治33年(1900)に笠原工業(株)が製糸業を創業した。国の施策に基づき昭和59年(1984)に製糸業は終了したが、当時の建物15棟が構内に保存されている。全棟が「上田市指定文化財」、そして「経済産業省認定近代化産業遺産」になっている。その内の7棟は「国の重要文化財」に指定されている。繭を収めた大倉庫群には現在はスチロールを保管している。高い煙突は繭を煮るための湯沸かしボイラー跡。現在事務所となっている建物は女子従業員が繰糸機を使い繭から生糸を引いていたところで、今も湯気抜の小屋根が載っている。



平成28 天皇后両陛下御観賞の桑の木 臥竜桑、3倍体桑、枝垂れ桑



5階建て繭倉庫の前庭で

先進地研修に参加して 八島利幸

近年天蚕種生産が上手く出来ず、信州大学繊維学部附属大室農場より天蚕種を分けていただいている関係上、飼育圃場の視察研修は「一見は百聞に如かず」の諺の通りであった。

①雌より雄が早く生まれて成虫となるのは広い森林の中で雌を探して出会いの機会を作る必要性に迫られた種の保全の原理である生態を理解すること。従って、雄と雌の出会いの時期(ペアリング)を人工的に作ることは困難なので雄の成虫時期を冷蔵庫で調整していること、或いは、雄の成虫を冷蔵庫で活動期間を遅らせていること。

②安曇野天蚕センターの訪問は前回(平成18年)と異なり大変オープンになった。つまり、管理責任者の館長が(田口忠志氏に)替われば視察・説明態度も変遷する事であった。飼育圃場も案内して頂き正直「もったいない」と思った。広大な圃場が生かされていない現状であった。しかし、これも出口=天蚕商品の販売先が狭いこと=の問題が隘路となっているのでやむを得ない対応か。当会はオール天蚕繭・糸を目指して商品化しては高額になるので「低価格商品を目指して家蚕絹を混紡化」して低価格商品していること。どこにおいても「使い捨て文化」が一般化して永く使用する物を大切にす文化が廃れているのは残念なことである。

③しかし、岡谷蚕糸博物館と併設されている宮坂製糸所は絹文化を残す努力がみられた施設であった。幸い宮坂会長、高橋社長が在社して説明や質問に答えていただいた。博物館において家蚕種の見本が展示されており「赤熟」「青熟」「大青」等の霊山産の原種に感動を覚えた。他県に於いて絹蚕業を支えた原種として大切にされているのに、我が市・我が県の対応は寂しい限りであると思われた。聞くところによると「駒ヶ根シルクミュージアム」も同様の施設である(25日水曜日は休館のため訪問できず)。

④研修先の各事業所の飼育規模から推察するに、当会の施設規模の土地生産量は決して劣るものではないと実感した。残るは(いかに販売するか)にかかっていると思われた研修であった。

長野研修に参加して 鈴木有美子

この度、天蚕会の長野研修に参加し、信州の地で育まれる天蚕文化の奥深さに触れる事ができました。

研修の最初の目的地である「信州大学大室農場」では広大な自然の中で天蚕がのびのびと育つ姿に感動を覚えました。飼育状況について説明をいただき、特に「土壌を焼く」環境整備方法に知恵と技術を感じました。また、多くのハウスが立ち並ぶその大規模な飼育体制からは地域の行政、そして国を挙げた強力なバックアップ体制を実感し、天蚕飼育への真摯な取り組みに胸を打たれました。

「安曇野天蚕センター」も同様に自然豊かな環境で大切に育てられる天蚕と織物を見学して改めてその美しさと生命力に魅了されました。さらに「岡谷シルク博物館」や「常田館製糸場」を訪れ古き良き時代の建物や機械が手入れが行き届いた状態で大切に保存されている様子を拝見しました。これらは単なる過去の遺物では無く、地域の歴史と誇りを今に伝える貴重な財産だと感じます。この優れた保存状態とそれを可能にするバックアップ体制の違いを目の当たりにし、大きな感銘を受けました。

一方で我が福島県の現状に思いを馳せると胸が締め付けられる思いです。かつては多くの養蚕文化や関連施設があったはずなのに、今ではそのほとんどが失われてしまっている現状を目の当たりにし、悔しさと残念さでいっぱいです。長野で目にしたような保存と継承への強い意志が福島でももっとあればと切に願います。

今回の研修は天蚕の飼育技術や歴史を学ぶだけでなく、文化遺産をいかに守り、次世代に伝えていくかという大きな問いを投げかけてくれました。この貴重な経験を活かし故郷の養蚕文化を見つめ直し未来へ繋ぐ為になにができるかを考えていきたいと思っています。

天蚕飼育・養蚕関連施設を研修して 渡辺美樹子

長野県の各施設において養蚕・製糸の歴史と現状を学び、五感で天蚕と養蚕の現場を体験し、伝統伝承の課題を再認識できた。

「信州大学大室農場」は、山付け前のクヌギなどの管理としてバーナーによる焼畑と下枝剪定を学び、土壌衛生・病害虫予防の重要性を実感。信州大学は天蚕の遺伝資源保存や研究の国内拠点であることを確認した。「安曇野市天蚕センター」は、織り手・スタッフと飼育・繰糸・機織りの情報交換。広大な飼育場で健康に育つ多数の天蚕に圧巻去れ、一時途絶えていた天蚕の復活と継承の努力に感動した。

「岡谷蚕糸博物館・宮坂製糸場」では、近代日本の産業史を象徴する資料と現役の製糸現場を見学。地域の小学校で養蚕教育も継続されていることを知った。「常田館製糸場」(急遽見学)では、明治創業の「重要文化財建築」(5階繭倉庫・煙突など)を体感。数ヶ月前に見た笠原工業時代の繭袋との縁を感じ、運命的な出会いに深い感動を覚えた。

今後、天蚕飼育技術の理解を深め、飼育管理改善や後進指導に活かしたい。



長野研修に参加して 菅野秀一

伊達市りょうぜんの「てんちゃん」 安曇野市穂高の「てんてん」

この度の研修地は長野県中央部の上田市、東御市、安曇野市、岡谷市で、研修施設は信州大学附属養蚕研究施設、公立蚕業歴史文化伝承施設、公的支援蚕業振興施設、蚕業創業企業保存施設など何れも地域発展の基となった養蚕業の歴史と機器材を保存展示し、そしてその蚕業文化を継承実践し、更なる技術向上を目指す立派な施設であった。長野県他の市町村にも多くの施設が有ると聞く。

どの施設を訪ねても福島県伊達の養蚕の歴史は知られており、私たちの「りょうぜん天蚕の会」も既知であって非常に嬉しかった。

「りょうぜん天蚕の会」は有志の任意団体であり、本会「天蚕の会だより」や伊達市のホームページ「市民活動」等で広く周知されているが、福島県でも伊達市でも「伊達の養蚕・製糸業」を全国に紹介できる長野県同様の施設は出来ぬものかと思っただ次第である。



QRコードから支援センターHP内の紹介ページにアクセスできます。

りょうぜん天蚕の会
伊達市霊山町掛田字明正寺11-7



4 読書活動
11 公民館活動
15 天蚕の会活動

だてな活動

※ 上のQRコードから支援センターHPの紹介ページにアクセスすると「りょうぜん天蚕の会だより」既刊全版を見ることができます。

会員の活動スナップ



第1次繭収穫作業での一休み（柿の木陰で）



松浦・石塚・川辺・八島・坂本・八島・金子様・菅野・河田・島貫(天蚕まつり)

天蚕の伝統 後世に 11月9日 福島民報



第二次繭収穫作業の保雄,上田,時男,島貫の各氏



長野県岡谷蚕糸博物館で給桑中の職員と懇談



天蚕和装の山田さん, 藤野さん



霊山中「ふるさとを学ぶ会」で講演の八島事務局長



工芸セット作りを終え、試飾る 三浦さん,高嶋さん



「天蚕まつり」受付の島貫,八島時男,河田の各氏



総会終了後の反省会



受付の丹治さん, 渡辺さん



会計監査 高野,八島,保雄,健治郎の各氏



東日本大震災後、放置された天蚕飼育林の再生と飼育の試み

福島大学 三田村敏正
 大阪大学 高橋 賢臣
 吉田 裕介
 東崎 昭弘
 大原理彩子
 明治大学 本多 貴之
 高橋 亘
 猪瀬 聡史
 信州大学 梶浦 善太



写真2 伐採した状態

東日本大震災での原発事故により、福島県浪江町では住民が避難を余儀なくされた。そのため当町で飼育をしていた鈴木静子氏の天蚕飼育林は2011年以降、放置されることとなった(写真1)。筆者らは、2023年春に10m以上に伸び林となった飼育林を鈴木静子氏に許可を得て地上80cmほどで伐採し(写真2)、2024年春には簡易ハウスを作成し(クスギ3列×14本、写真3、4)、14年振りに飼育を試みたので、その結果を報告する。



写真3 周囲の竹を利用してハウス建設

2024年5月28日に880卵を山付けし、7月28日および30日に収穫した。その結果、収穫率は対山付け数で6%、



写真1 放置されたクスギ飼育林



写真4 完成した飼育ハウス

表1 天蚕飼育成績(2024年)

山付け卵数(個)	孵化数(頭)	孵化率(%)	収穫数(個)	対孵化数収穫率(%)	被害繭数(個)	対収穫数被害率(%)	正常繭の平均繭重(g)
880	644	73.2	51	7.9	36	70.6	7.0

2024年6月4日山付け
 収穫数には被害繭を含む



写真5 ネズミに食害された天蚕繭

対孵化数で8%と非常に低く、繭は51個であった(表1)。そのうち、36個はネズミの被害(写真5)を受けていた。これはクスギ林だけでなく、かつて畑地だった周囲も放置されていたことによるものと考えられる。得られた繭は大坂大学で放射性セシウムを測定したところ、検出されなかった。

2025年はネズミ対策を実施して飼育するとともに、新たな被災地・大熊町においても飼育を開始する予定である。

なお、飼育場所を提供して下さった鈴木静子氏、飼育林の伐採ならびにハウス建設に協力していただいたりょうぜん天蚕の会の皆様に御礼申し上げます。

トピックス

読者が選ぶ県内十大ニュース

- 1 クマの人的被害最多
- 2 本県新酒16銘柄「金」、日本一
- 3 米価高騰で備蓄米流通
- 4 郡山で19歳女性はねられ死亡
- 5 いわき信組 反社勢力に10億円
- 6 TOKIO解散
- 7 記録的大雪で災害救助法適用
- 8 郡山出身 鈴木さん芥川賞
- 9 若松のパチンコ店で多額窃盗
- 10 猪苗代湖ラムサール条約登録

令和7年12月14日 福島民友

学法石川 初優勝



男子県勢初

全国高校駅伝

大会新、2時間0分36秒

男子県勢初、記録的優勝が実現した。学法石川高校男子駅伝部は、第76回全国高校駅伝競走大会で、2時間0分36秒という大会新のタイムで優勝した。これは、男子県勢初となる。また、大会史上初の2時間以内での優勝も達成した。学法石川高校は、この大会で、男子県勢初となる。また、大会史上初の2時間以内での優勝も達成した。学法石川高校は、この大会で、男子県勢初となる。また、大会史上初の2時間以内での優勝も達成した。

挑戦17度目、悲

学法石川男子駅伝部は、記録的優勝が実現した。学法石川高校は、この大会で、男子県勢初となる。また、大会史上初の2時間以内での優勝も達成した。学法石川高校は、この大会で、男子県勢初となる。また、大会史上初の2時間以内での優勝も達成した。

令和7年12月12日 福島民友

2025年 十大ニュース 国内

- 1 初の女性首相、高市政権誕生、自派連立
- 2 クマに襲われ死傷者相次ぐ
- 3 参院選、自公が過半数割れ
- 4 令和の米騒動続き、政府備蓄米放出
- 5 元巨人選手、監督の長嶋茂雄さん死去
- 6 日経平均、初約5万円台
- 7 高市首相の「存立危機事態」宣言、中国反発
- 8 フジ第二番委、中居正広氏の性暴力疑念
- 9 大阪・関西万博、入場者260万人超える
- 10 樹海高橋く、拘束140〜150円台

気風 / 日本博覧会協会が会章

令和7年12月30日 福島民友

成人女性武者 出陣

「風流道場」きょう神旗争奪戦

成人女性武者の出陣式が行われ、きょう（25日）は、神旗争奪戦が行われた。参加者は、熱戦を繰り広げ、激しい戦いを演じた。

令和7年5月25日 福島民友

いわき信組 不正融資247億円

第三者委調査 経営陣主導20年超

使途不明8億、10億超

いわき信組の不正融資問題について、第三者委員会が調査を進めている。経営陣が主導した不正融資が20年以上続いたことが明らかになった。

令和7年5月31日 福島民友

東電旧経営陣の責任認めず

株主側連立訴訟上告へ

東京高等裁判所は、東電旧経営陣の責任を認めず、株主側連立訴訟の上告を受理した。

令和7年6月7日 福島民友

長嶋茂雄さん死去

巨人V9背番号3

長嶋茂雄さんの訃報が伝えられた。巨人V9背番号3の長嶋茂雄さんが、令和7年6月4日に死去した。

令和7年6月4日 福島民友

群馬伊勢崎11度

国内観測史上最高

群馬県伊勢崎市の観測史上最高気温が記録された。国内観測史上最高気温となった。

令和7年8月6日 民友

坂口氏、生理学・医学賞

制御性T細胞 発見

過剰免疫反応抑制

坂口義典氏が生理学・医学賞を受賞した。制御性T細胞の発見による過剰免疫反応抑制の研究成果が評価された。

令和7年10月7日 福島民友

北川氏 ノーベル化学賞

金属有機構造体 開発

CO2回収 環境分野応用

北川浩司氏がノーベル化学賞を受賞した。金属有機構造体の開発によるCO2回収技術の環境分野への応用が評価された。

令和7年10月9日 福島民友

高市内閣発足

憲政初の女性首相

高市早苗氏が憲政初の女性首相に就任した。高市内閣が発足した。

令和7年10月22日 福島民友

本県2位

最終区 一時10秒差迫る

本県の駅伝チームが最終区で一時10秒差を迫る展開となった。

令和8年1月19日 福島民友

戸塚「金」

山田「銅」

戸塚の選手が「金」を獲得し、山田の選手が「銅」を獲得した。

令和8年2月15日 福島民友

りくりゅう「金」

フィギュアアベア日本初

りくりゅうの選手が「金」を獲得し、フィギュアアベアが日本初となった。

令和8年2月18日 福島民友

伊達市長 須田氏3選

20年ぶりの無投票に

伊達市長選挙で須田氏が3選を果たし、20年ぶりの無投票選挙となった。

令和8年1月26日 福島民友

自民最多316議席

戦後初単独3分の2

自民党が衆議院選挙で最多議席を獲得し、戦後初単独3分の2の議席を獲得した。

令和8年2月10日 福島民友